

# 錦織遺跡

一倉庫建設に伴う発掘調査報告 (NK2016-1) -

2018. 5. 31 富田林市教育委員会

## 1. はじめに

錦織遺跡は石川の西岸、低位段丘面に位置する(図1)。縄文時代から中世までの複合遺跡として知られ、特に市内では数少ない縄文時代前期の土器が出土したことで知られている。また、ちょうど北へ20mに甲田南遺跡、北西へ80mに新家遺跡があり、3つの遺跡が近接している場所である。隣接する近鉄長野線を挟んで西側の土地は段丘崖となっており、中位段丘面が広がっている。

今回の調査は、倉庫建設に伴う発掘調査である。平成28年11月14日～18日の日程で14か所のトレンチを設定し、事前調査を実施した(図2・3)。北部を中心に遺構や遺物が確認できそうな褐色系土層(図3網掛け層)の広がりが認められ、NO.10で遺構を検出した。

この結果を受けて、本体工事の掘削深度では遺跡への影響は無いと判断したが、NO.10に近い西側の擁壁工事部分については掘削が深くまで及ぶことから、本発掘調査を行うこととなった(図2)。本調査は平成29年1月10日～19日に実施した。

## 2. 基本層序

本調査を実施した地点の基本層序(図3右上)は、現地表面より現代耕作土・床土(図3右上-1・2層)、暗灰黄色粗砂混粘質シルト層(図3右上-3層)、暗灰黄色粗砂混粘質シルト層(図3-4層)、地山の暗褐色粗砂混粘質シルト層(図3右上-5層)と続く。この基本層序は調査地西壁を視察したもので、西壁については地層に乱れがなく、北から南まで水平堆積が続く。平均してT.P.=70.3m(GL-0.4～0.5m)で地山に到達するが、調査区北側については調査区の西側から東側へ向けて地山が下がっており、T.P.=70.1m(GL-0.6～0.7m)の付近で地山である。

一方で、西壁から2.5m東へ離れた位置で実測した拡張部の東壁断面(図5)を見ると、トレンチNO.10の場所付近では地山がさらに深くなっており、現地表面から1.6m下がっても地山に達していない。この急激



図1 調査地と周辺遺跡分布図



図2 調査地点配置図

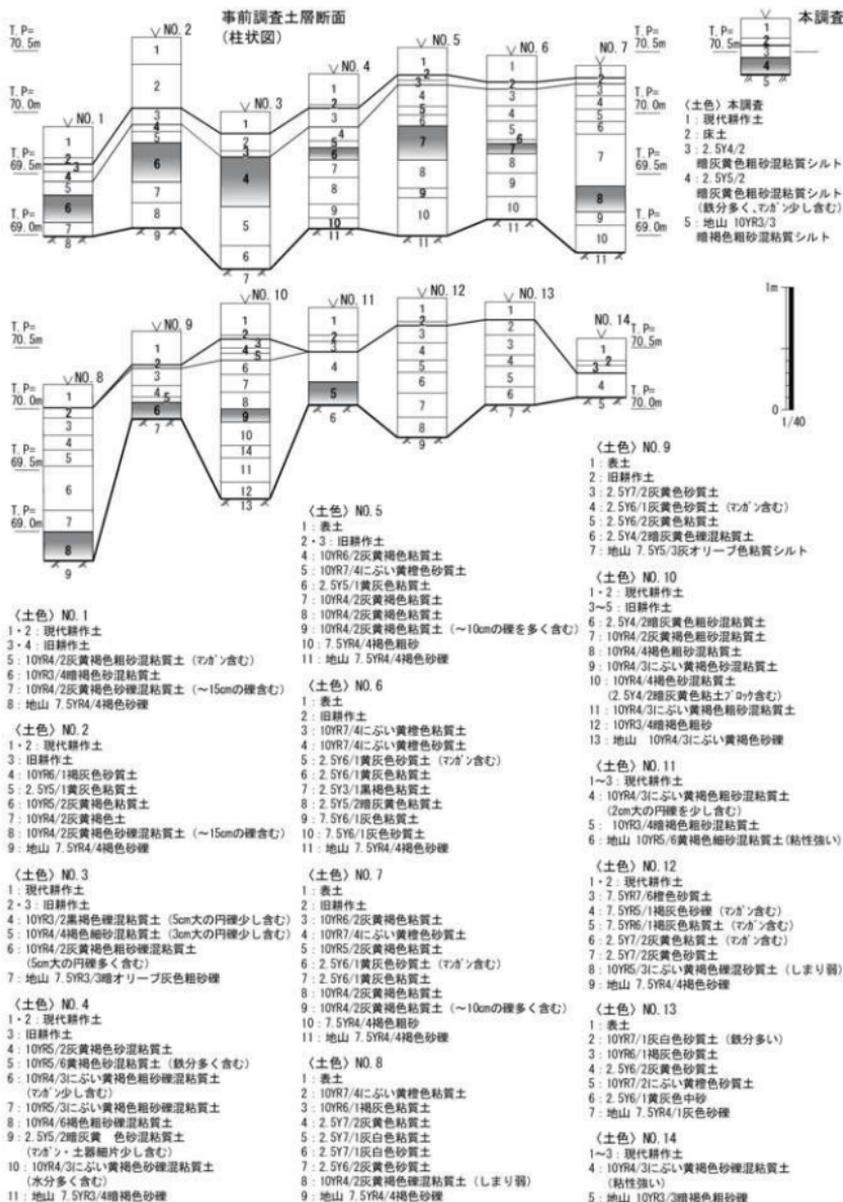


図3 事前調査・本調査時の土層断面図

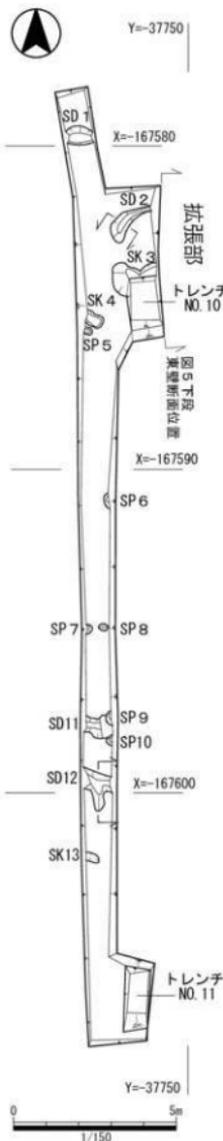


図4 全体平面図

な差は自然地形からくるものか、人為的な理由で深く下がっているのかは確認できなかった。この深く下がっている部分に堆積する地層（13～16層）からは出土遺物もなく、年代も不明である。

全体を通して出土遺物はほとんど認められないが、遺物自体はローリングを受け、地層の年代を示しているとは言い難い。

須恵器や土師器の破片が出土しており、古墳時代から中世までの遺物が含まれている。

### 3. 遺構

今回の調査では地山直上において遺構検出を行い、小穴6基、溝4基、土坑3基を検出した（図4、写真1）。擁壁部分での調査ということもあり、調査区の幅が狭いため、遺構の全容が分からなかったものも多いが、溝は東西方向のものが大半である。いずれの遺構からも出土遺物は無く、年代の特定につながる資料は得られていない。

また、試掘調査で遺構を検出していたトレンチNO.10が調査区に近接することから、部分的に東側へ拡張し、調査させていただいた。

#### SD2（図4・5、写真2・3）

拡張部で検出した円弧を描きながら延びる溝状の遺構で、幅0.4m、長さ1.4m以上である。水が流れていたような痕跡は確認できていない。

#### SD12（図4・5、写真2・4）

調査地中央より南側に位置する東西方向に延びる溝状の遺構で、幅0.6～0.9m、深さ0.4mである。SD2と同様に水が流れていたことを示すような堆積は確認できなかった。

#### SK3（図4・5、写真2）

事前調査時にトレンチNO.10で確認した遺構である。不定形な遺構で、南北1.4m、東西1.4m以上、深さ0.65mである。埋土は1層であり、一度に埋まったものと考えられる。

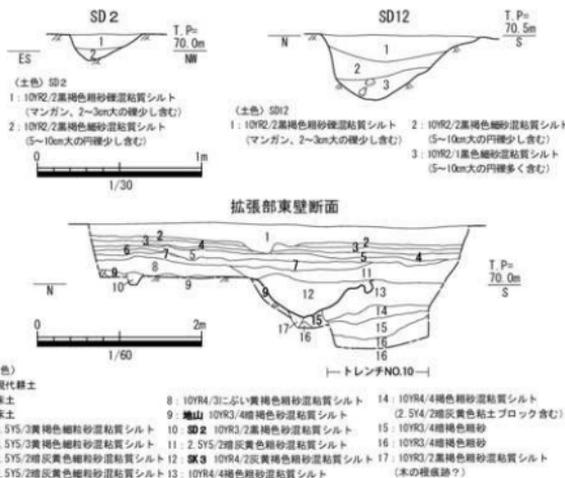


図5 土層断面図

#### 4. おわりに

今回の調査で確認した遺構は溝が主体であった。事前調査の地層データ（図3）からも連綿と水平堆積が続き、長年耕作地として利用されていた姿が伺えた。時代については残念ながら出土遺物が極端に少なく、古墳時代～中世の遺物が少量出土するに留まり、各遺構や地層の年代を決めるに至らなかった。また、褐色系の粘質土（図3網掛け層）の広がりや申請地北側を中心に広がっているのを確認しており、周辺での調査では今後も注意して見ていく必要がある。



写真1 完掘状況（北より）



写真2 拡張部完掘状況（西より）



写真3 SD2断面（北東より）



写真4 SD12断面（西より）

### 報告書抄録

ふりがな	にしこおりいせき		副書名	倉庫建設に伴う発掘調査報告 (NK2016-1)				
書名	錦織遺跡		シリーズ名・番号	富田林市文化財調査報告 6 3				
編集機関	富田林市教育委員会		編著者名	渡邊 晴香				
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000 (代)							
発行年月日	2018 (平成30) 年 5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
にしこおりいせき 錦織遺跡	とんだばやしにしこおりひがし 富田林市錦織東 いっちようめ 一丁目	27174	47	34° 29' 21"	135° 35' 22"	20170110 ～ 20170119	29 ㎡	倉庫
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
錦織遺跡	集落跡	古墳 ～中世	溝	須恵器 土師器		時代を通して耕作域として使用されていたと考える。		